

強者の戦略

今回は漢文です。出典は面白い文章の多い『戦国策』から。20分くらいを目安にチャレンジしてください！

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

希写見^ユ建信君^ニ。建信君曰^ク、「文信侯於^{ケル}僕也、甚無^シ礼。秦使^{ムルヤ}二人来仕^ハ、僕官^ニ之^ヲ丞相^ニ、爵^ニ五大夫^ニ。文信侯於^{ケル}僕也、甚矣其無^シ礼。」希写曰^ク、「臣以^テ為^ス、今世用^ル事者、不^ト如^カ商賈^ニ。」建信君悖然曰^ク、「足下卑^シ用^ル事者、而高^シ商賈^ニ乎。」曰^ク、「不然^ラ。夫良商不^シ与^レ人争^ハ売買之賈^ニ、而謹^シ司^レ時^ヲ。時賤^ク而買^ハ、雖^モ貴^ク已^シ賤^ク矣、時貴^ク而売^ハ、雖^モ賤^ク已^シ貴^ク矣。昔者文王之拘^ニ於^リ牖里^ニ、而武王羈^ニ於^リ玉門^ニ、卒斷^ニ紂之頭^ヲ、而梟^ニ於^リ太白^ニ者、是武王之功也。今君不^レ能^ハ与^レ文信侯^ニ相抗^ス以^テ權^ヲ、而責^ム文信侯少^レ礼。臣窃^ニ為^ス君不^レ取^ラ。」

(『戦国策』)

(注) 希写——趙の人。

建信君——趙の大臣。

文信侯——秦の大臣、呂不韋のこと。

官^ニ之^ヲ丞相^ニ——丞相の官房に属させる。

用^ル事者——政治家。

牖里——地名。

玉門——地名。

梟^ニ於^リ太白^ニ——太白の旗の下に吊り下げる。

權——はかりごと。

強者の戦略

(一) 「甚矣其無_レ礼」(傍線部 a)とあるが、建信君がそのように述べたのはなぜか、簡潔に説明せよ。
(一・五行)

(二) 「時賤而買、雖_レ貴已賤矣」(傍線部 b)をわかりやすく現代語訳せよ。
(二行)

(三) 「是武王之功也」(傍線部 c)とはどういうことか、簡潔に説明せよ。
(一・五行)

(四) 「臣窃為_レ君不_レ取」(傍線部 d)とあるが、希写が建信君に訴えたかったのはどのようなことか、全文の趣旨をふまえて、わかりやすく説明せよ。
(三行)

※1行は35字前後と考えよう。

強者の戦略

【解答】

(一) 秦から派遣された人物に便宜を図ったにもかかわらず、秦の大臣である文信侯が、建信君に無礼な態度を取ったから。

(二) 相場が安い時に買えば、高い値段の品物でもとても安く買えるということ。

(三) 一時は不利な立場にあった武王が、立場を逆転して紂王を打ち倒したのは、適切な時機を伺った武王の功績であるということ。

(四) 文信侯や秦に対抗する術策がない以上、文信侯の無礼を非難するのではなく、今は我慢して時機を伺うのが、政治家としても建信君自身のためにも良い判断だということ。

【解説】

(一) 傍線部とほぼ同内容が、同じ台詞の冒頭でも繰り返されているが、冒頭には「矣(感嘆)」が欠けている点に注意しよう。文信侯の無礼な態度にただ憤っているだけでなく、秦からの人間を厚遇したにもかかわらず、無礼な態度があったことに憤りを強めているのである。解答は単に「秦使_二人来仕_一、僕官_三之丞相_一、爵_三五大夫_一」を訳すのではなく、それが結局何を意味するか(便宜を図った・厚遇した)を明確にしよう。

(二) 直訳ではやや意味が取りにくいだが、傍線部直前の「良い商人は時機を伺う」という内容が理解できていれば、難しくはないだろう。

(三) 周の文王・武王父子が殷の紂王を打倒したことは漢文常識であり、これを知っていれば、内容は読み取りやすくなるだろう。ポイントは「昔者_レ太白」までをうまくまとめることと、「武王が適切な時機を伺った」点を明確にすることの2点である。

(四) 本文全体の趣旨から「文信侯の無礼を今は我慢して、時機を伺うべき」の内容は必須。また、希写が「用事者」や「商賈」、「権(謀)」に言及していることから、我慢すべき理由は道徳的なものではなく、政治的な合理性に基づいた実利的な判断であること、を明確にしよう。最後に、傍線部に「為君」とあることから、希写の主張が建信君の個人の利益に適う点も指摘したい。

【参考】

出典の『戦国策』は後漢の劉向が編纂した史書(逸話集)。「戦国時代」という名称の由来にもなっている。特に「縦横家」と呼ばれる策士・遊説家たちの活躍が中心であり、道徳的言説よりも実利的で、術策や弁舌を重んじる傾向が顕著である。「虎の威を借る狐」「漁夫の利」「先ず隗より始めよ」など、故事成語となった逸話も多い。

ちなみに、本文中の「文信侯(呂不韋)」は商人の出ながら秦の宰相にまで成り上がった人物で、始皇帝の本当の父親という説まである人物。おそらく希写が「商賈」を引き合いに出したのは、「文信侯」が商人の出であることを意識したものでしょう。

【書き下し文】

希写建信君に見ゆ。建信君曰く、「文信侯の僕に於けるや、甚だ礼無し。秦人をして来て仕へしむるや、僕之を丞相に官し、五大夫に爵す。文信侯の僕に於けるや、甚だしきかな其の礼無きや」と。希写曰く、「臣以為らく、今世の事を用ふる者、商賈に如かず」と。建信君悖然として曰く、「足下事を用ふる者を卑しみて、商賈を高しとするか」と。曰く、「然らず。夫れ良商は人と売買の賈を争はずして、謹んで時を司ふ。時賤くして買へば、貴しと雖も已だ賤く、時貴くして売らば、賤しと雖も已だ貴し。昔者文王の牖里に拘はれ、武王玉門に羈がれしも、卒に紂の頭を断ちて、太白に梟けし者は、是れ武王の功なり。今君文信侯と相抗するに権を以てすること能はずして、文信侯の礼少なきを責む。臣窃かに君の為に取らず」と。

【通釈】

希写は建信君に面会した。建信君が言うには、「文信侯の私に対する態度は、甚だ無礼だ。秦が人を我が国に來させて仕えさせた時は、私はその者を丞相の官房に属させ、五大夫の位を与えた。（それなのに）文信侯の私に対する態度は、なんと甚だしいことか、その無礼なことは」と。希写が言うには、「私が思いますには、現代の政治家は商売人に及ばないですね」と。建信君は顔色を変えて怒って言うには、「貴殿は政治家を見くびって、商売人を敬うのか」と。（希写が）言うには、「そうではありません。そもそも良い商人は他人と売買の値段を競わず、謹んで時機を伺うものです。相場が安い時に買えば、高い値段のものと言ってもとても安く買え、相場が高い時に売れば、安い値段のものと言ってもとても高く売れます。昔、周の文王が牖里に捕らわれ、武王が玉門で牢につながれても、結局は殷の紂王の首を討ち取り、太白の旗の下に吊り下げることができたのは、（時機を伺った）武王の功績です。今、あなたは文信侯に対抗するのに、権謀によって対抗することができず、文信侯の礼が足りないのを責めている。私はひそかに、あなたのために賛成できないことだと思います」と。